

小説

小さな手袋 てぶくろ

内海隆一郎 うつみ りゅういちろう

P.18~30



- 登場人物の会話や行動から、心情の変化を読み取る。
- 登場人物どうしの交流をとおして、人々との触れ合いについて自分の考えをもつ。

語句

意味のたくさんある語句は、教科書で使われている意味を書こう。用例も参考にしよう。

■語句の意味を辞書で調べよう。

おもかけ

教 18 ページ 1 行め

〈用例〉この辺りの街並みは戦前のおもかけを残している。

うつそう

教 18 ページ 4 行め

〈用例〉うつそうと茂る森。

まばら

教 18 ページ 5 行め

〈用例〉夜になると人通りがまばらになる。

むしばむ

教 18 ページ 7 行め

〈用例〉公害が人々の健康をむしばむ。

放射状

教 18 ページ 10 行め

〈用例〉窓ガラスに放射状のひびが入る。

真偽

教 20 ページ 19 行め

〈用例〉うわさの真偽は定かでない。

趣

教 21 ページ 12 行め

〈用例〉イギリスの趣がある庭園。

日参にっさん

教 21 ページ 18 行め

〈用例〉 自由研究のために図書館に日参する。

駆かる

教 22 ページ 2 行め

〈用例〉 全速力で馬を駆る。

おえつ

教 26 ページ 15 行め

〈用例〉 悲しい映画を見ておえつをもらす。

辞去じきよ

教 27 ページ 11 行め

〈用例〉 先生のお宅を辞去する。

「間髪」を「かんぱつ」と読まないようにしよう。「間髪を入れず」。髪の毛一本を挟むすきもないという意味だよ。



■短文を作ろう。

察さつする

教 24 ページ 6 行め

〈意味〉 周りの状況から、相手の事情や気持ちのおおよそを知る。

視線しせんを宙ちゆうに泳およがせる

教 25 ページ 4 行め

〈意味〉 考えごとや気まずいことなどがあって、目を相手からそらし、あらぬ方に向ける。

間髪かんぱつを入れず

教 25 ページ 10 行め

〈意味〉 間をおかず、すぐに。

■類義語を調べよう。

類 沈着ちんちやく

(教 20 ページ 8 行め)

〈意味〉 慌あわてないで、落ち着いている。

Empty rectangular box for writing.

読解

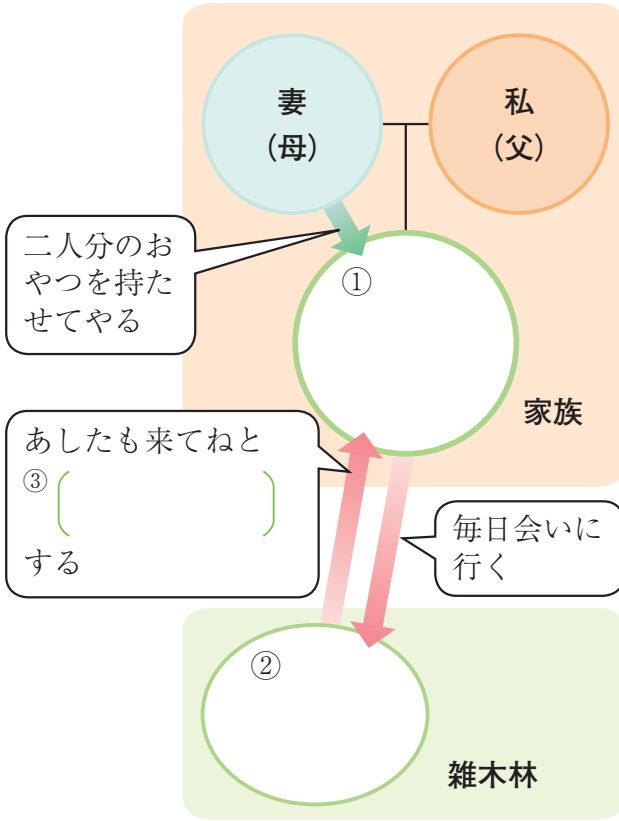
ステップ1 内容を整理しよう

◆次の場面について、() にあてはまることばを入れて人物相関図を完成させよう。(同じ番号のところは同じ名前が入ります。)

読み方を学ぼう1年2 「人物相関図」(教巻末折り込み)を応用してみよう!

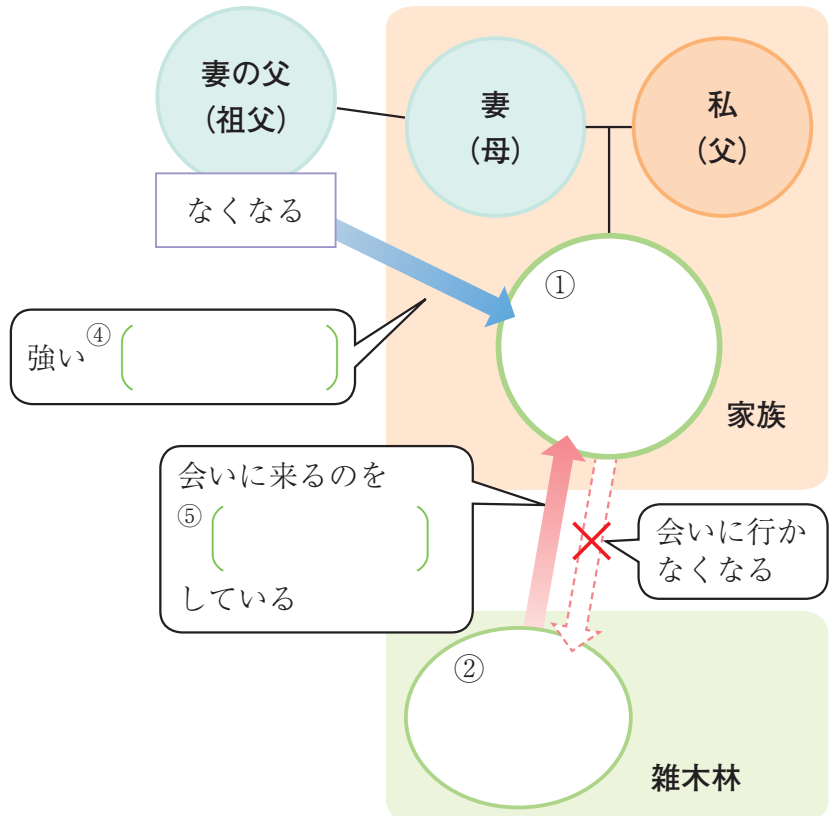
■毎日雑木林にシホが訪ねている場面

(教19ページ1行め〜23ページ3行め)



■シホが雑木林に行かなくなった場面

(教23ページ4行め〜24ページ8行め)



場面ごとに人物相関図を作ること、話の流れがつかみやすくなるよ。このあとの場面についても、自分で人物相関図を作ってみよう。



ステップ2 内容を読み取る

【前書き】（教18ページ初め～18ページ11行め）

◆ この部分では、何について説明されていますか。三字で書こう。

--	--	--

【場面1】 おばあさんとの出会い（教19ページ1行め～20ページ14行め）

1 シホがおばあさんと出会ったのは、いつのことですか。〔 〕にあてはまることを書こう。

・ 今から^①〔 〕前、小学^②〔 〕だったときの、

③〔 〕の午後。

2 初めておばあさんに会ったとき、シホはどんな印象をもちましたか。〔 〕にあて

はまることを教科書から六字で抜き出そう。

--	--

・ 童話の本に出てくる

--	--	--	--	--

【場面2】 おばあさんの正体（教20ページ15行め～21ページ6行め）

◆ 「真偽を確かめに、一人で林へ出かけた」（教20ページ19行め）とありますが、シホは何の真偽を確かめたのですか。適切なものを次の中から選ぼう。

ア おばあさんが童話に出てきた妖精かどうか。

イ おばあさんが林にいたのは現実かどうか。

ウ おばあさんが魔法を使えるかどうか。

エ おばあさんが病院の入院患者かどうか。

--	--

読み取りのヒント

【前書き】

◆ 話の舞台となる場所について説明しているよ。

【場面1】

1 【場面1】の最初の部分を読んでまとめよう。

2 シホはおばあさんのことをすっかりこわがって、目を見合わせないようになりに逃げてしまったよ。

【場面2】

◆ シホの「いやだあ、……どうもおかしいと思ったんだ、あたし。」ということばや、そのあとの「小学三年生の……気づいたわけだ。」から考えよう。シホはおばあさんと話をしてみて、病院の患者さんだということがわかったよ。

【場面3】 おばあさんとの日々 (教21ページ7行め〜23ページ3行め)

1 おばあさんはどのような人でしたか。□□の字数であてはまることを教科書から抜き出そう。

・ 雑木のそばにある病院の、①

□□
病棟びょうどうの入院患者かんにじゃ。

・ ②
□□
以上も入院しており、脳卒中のため③

□□
になっている。

□□
と右足が不自由

2 十一月に入っても、シホが雑木林へ行くのをやめなかったのはなぜですか。〔 〕
にあてはまることを考えて書こう。

・ おばあさんがシホに会うことをとて①〔 〕
の日も会いに行くことを②〔 〕
していたから。

□□

□□

〔 〕
に思っており、いつも、次

【場面4】 祖父の死 (教23ページ4行め〜24ページ8行め)

1 東北から戻ってから、シホがおばあさんに会いに行かなくなったのはなぜですか。

□□にあてはまることを①は一字、②は三字で教科書から抜き出そう。



・ 初めて体験する身近な人の①□□
によって、心に②□□
を受けた

□□から。

読み取りのヒント

【場面3】

1 【場面3】の最初の部分に注目しよう。

シホがおばあさんと毎日のように話をする中で、おばあさんがどんな人なのかわかったんだよ。



2 「だってえ」から始まるシホのことばに、シホが雑木林へ行く理由が書かれているよ。シホはおばあさんが自分に会いたがってくれることをうれしく思っているんだよ。

【場面4】

1 祖父との永遠の別れは、九歳のシホにとって大きな衝撃しょうげきを受けるできごとだったんだよ。永遠の別れ、大きな衝撃しょうげきと同じ内容を表すことばを探そう。

2 「私たちにはそのときの娘の心に立ち入ることはどうしてもできなかった」(教24ページ7行め)とありますが、このときの「私」と妻(シホの父と母)の気持ちとして、適切なものを次の中から選ぼう。

- ア うるさいことを言って、シホが反抗的な子になったら困る。
- イ おばあさんのことは早く忘れてほしいので、ちよほどよかった。
- ウ おばあさんのことを言って、シホの傷ついた心を刺激したくない。
- エ 記憶はそのうち元に戻るだろうから、今はそつとしておこう。

【場面5】 小さな手袋 (教24ページ9行め～27ページ10行め)

1 二年半後、シホがおばあさんのことを思い出した「ちよつとしたきっかけ」(教24ページ10行め)はどのようなことでしたか。教科書のことばを使って書こう。

2 「気軽そうに」(教25ページ1行め)とあることから、シホがこのときおばあさんに対してどのような気持ちをもっていたことが読み取れますか。適切なものを次の中から選ぼう。

- ア おばあさんのことが心配で様子を聞くのが怖かった。
- イ おばあさんのことを特に深刻に考えてはいなかった。
- ウ おばあさんがどうしているか聞くのが楽しみだった。
- エ おばあさんがどうなっているかいいと思っていた。

読み取りのヒント

2 「私」も妻も、シホがおばあさんのところへ行かなくなったのは、祖父の死がきっかけだとわかっているよ。おばあさんの話題を出すと、シホが苦しむかもしれないと思って何も言えなかったんだ。

シホは毎日会いに行っていた大好きなおばあさんのことをすっかり忘れてしまったかのように、雑木林へ出かけなくなってしまうたよ。祖父の死による衝撃が、それだけ強かったんだね。

【場面5】

1 行きつけの病院がお休みなので、雑木林のそばの病院へ行くことになったよ。

二年半の間、シホがおばあさんに会いに行かなかったこともおさえよう。

2 ずいぶん久しぶりだけれど、元気かなというくらい気持ちでいたんだね。



3 中年の修道女の話聞いて、おばあさんからのクリスマスプレゼントを受け取ったときのシホの気持ち、おばあさんに語りかける形で考えて書こう。

4 おばあさんに会いに行こうとしたシホを、修道女が押しとどめたのはなぜですか。 [] にあてはまることをばを教科書から十八字で抜き出そう。

おばあさん（宮下さん）は、ほげが激しくなって、

から。

【場面6】 病院からの帰り道（教27ページ11行め〜27ページ終わり）

◆ シホが雑木林へ寄っていきたくて言ったときの気持ちとして、適切なものを次の中から選ぼう。

ア おばあちゃんは、私が来るのをずっと待っていてくれた。だから今度は私が毎日雑木林に行っておばあちゃんが来るのを待とう。

イ おばあちゃんはもう、私のことを忘れてしまった。私も最後に思い出の雑木林を眺めて、おばあちゃんのことは忘れよう。

ウ おばあちゃんとはもう二度と前のように過ごすことはできない。せめて雑木林に行って、あの頃の思い出を振り返りたい。

読み取りのヒント

3 シホが「一年以上も」とつぶやいたことや、小さな手袋を顔に押しつけて泣いていることから考えよう。
おばあさんは、右手が不自由で、親指大の人形を編むのも時間がかかっていただけね。手袋を編むのはどんなに大変だっただろう。

4 シホを今のおばあさんに会わせても、シホがただだけだと思っただけと押しとどめたんだよ。

一年半の歳月は、取り戻すことのできないものだったんだ。



【場面6】

◆ 病院のできごとから、シホがどんな気持ちになっているか考えよう。おばあさんに会いに行かなかったことを後悔し、今会っても遅いことを知って、やるせなく感じているよ。

ステップ3 考えを深めよう

◆ この小説の題名である「小さな手袋」について考えよう。

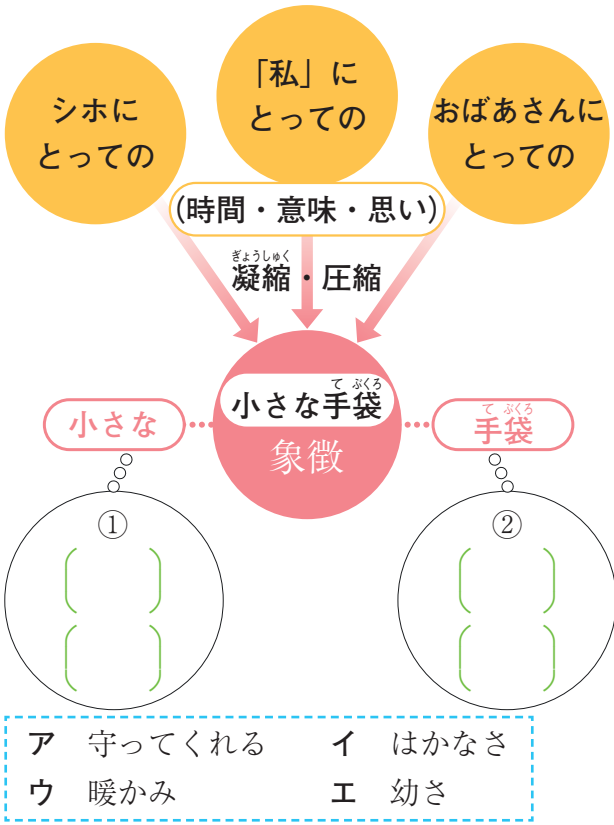
読み方を学ぼう②

象徴 (教 30 ページ)

象徴とは：

さまざまな事柄を一つの物に凝縮して表現する方法。
連想によって読み解くことができる。

(1) 「小さな手袋」は何を象徴しているでしょうか。 ()
にあてはまることばを下の () から選ぼう。



(2) 次の登場人物にとって、「小さな手袋」にこめられた時間・意味・思いはどのようなものでしょうか。 ()
にあてはまることばをあとの () から選んで書こう。

■ シホ

・ おばあさんに会いに行かなかった (1) の年月。
・ 会いに行かなかったことへの (2) 。
・ もう (3) という寂しさ。
・ 会わない間も自分を思っていてくれた、おばあさんの深い (4) を感じるもの。

■ 「私」(シホの父)

・ おばあさんと娘の交流、娘の (5) の証。

■ おばあさん

・ シホのために、不自由な手で手袋を編んだ (6) の期間。
・ シホに (7) 、シホを元気づけたいという願い。

愛情 二年半 後悔 一か月半 成長 会いたい 会えない